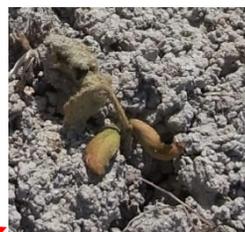


背景・ねらい

エダマメの出荷期間の延長のため、早出しのエダマメは4月上旬から播種が行われる。この作型では、気温が低いことから、トンネル栽培や黒マルチ栽培が推進されているが、4～5月は風が強くトンネルが飛ばされることがあること、トンネルの管理や資材費用がネックとなることから取り組みが少ない。そこで、不織布のべたがけについて検討した。

成果の内容

低温期のエダマメ播種において、播種後に不織布をべたがけすると地温が高くなり、無被覆に比べて出芽率が高く出芽後の枯死率が低下するため、**苗立ち率が向上する。べたがけ被覆を第1葉または第2葉が完全に展開するまで行うと、初期の葉齢の展開が促進され、一次分枝数が増加して商品収量が多くなる。**



無被覆では、
出芽後の枯死

表1 不織布被覆および被覆除去条件が出芽苗立ちに及ぼす影響(2019年5月10日)

不織布除去時期 条件 (月日)	出芽率 (%)	出芽後枯 死率(%)	苗立ち率 (%)
無被覆	53.9	41.7	12.2
子葉展開後 4月26日	89.4	36.1	53.3
初生葉展開後 5月4日	81.1	15.6	65.6
第1葉展開後 5月13日	77.2	18.9	58.3
第2葉展開後 5月17日	81.7	22.2	59.4

苗立ち率＝出芽率－出芽後枯死率

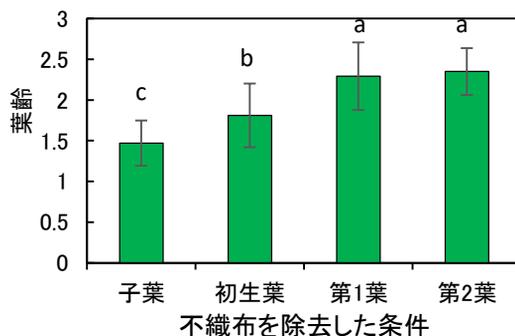


図2 不織布の除去時期がエダマメの葉齢に及ぼす影響(2019年5月17日)

異なる英字間にTukeyの多重比較検定で1%水準の有意差あり 図中の縦線は標準偏差を表す

表3 不織布の除去時期が収量に及ぼす影響(2019年7月6日)

被覆資材除去時期 条件 (月日)	1本あたり 商品莢数	商品莢重 (g/本)	1本あたり くず莢数	くず莢重 (g/本)	収穫率 ² (%)	m ² 当たり 商品莢数	商品収量 (g/m ²)
子葉展開後 4月26日	53.4	137.2	18.9	22.3	52.2	326	838
初生葉展開後 5月4日	47.7	128.6	24.2	31.5	64.4	360	970
第1葉展開後 5月13日	59.1	164.6	19.1	25.5	57.8	399	1113
第2葉展開後 5月17日	52.1	150.8	29.8	42.5	61.1	373	1078

²収穫率は播種粒数と収穫株数から求めた